

受注企業動向調査結果

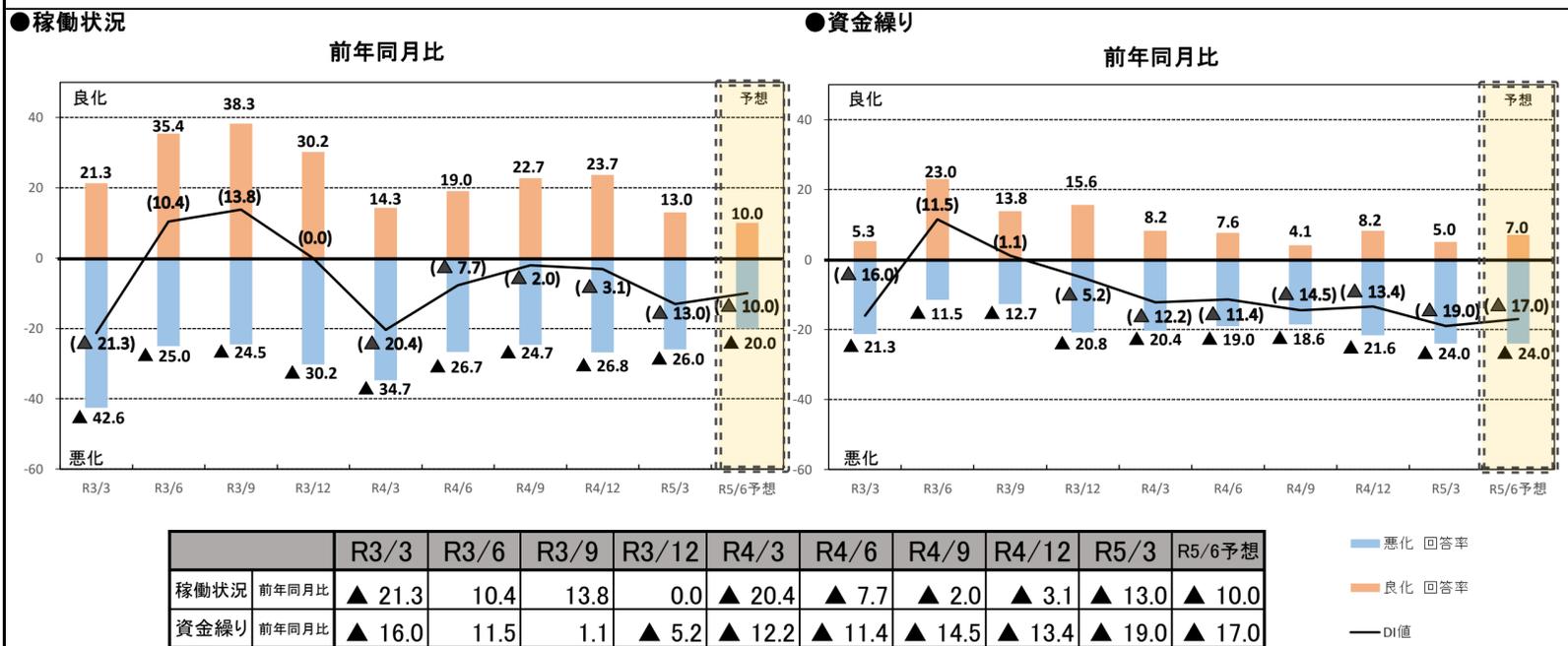
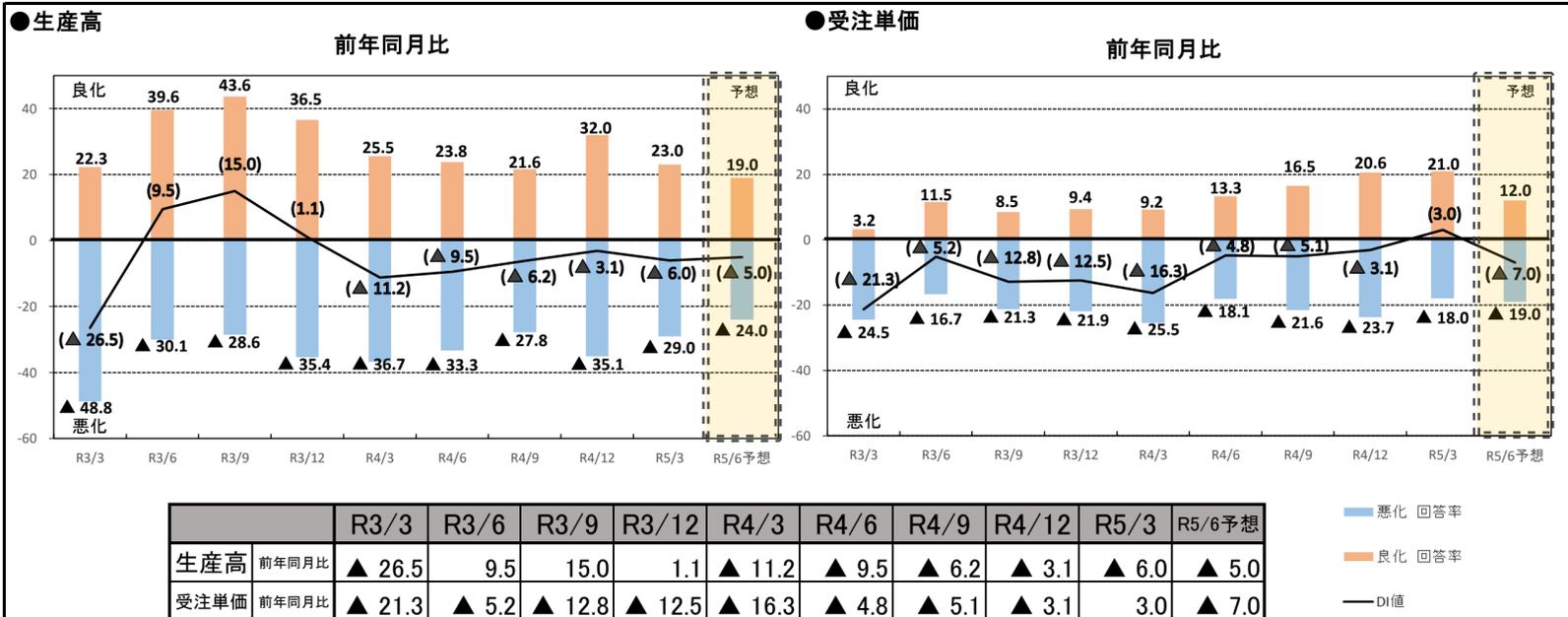
-2023.4-

- 調査時点 令和5年3月調査(令和5年3月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12月末時点)
- 回答企業 100社(回答率:66.67%)

<業種内訳>

プラスチック	10社
鉄鋼・非鉄	6社
金属製品	14社
一般機械器具	24社
電気機器	23社
輸送用機器	5社
精密機器	11社
縫製	7社
計	100社

DI(Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。



●概要(総合)

- ・生産高(前年同月比)DIは▲6.0で前回の▲3.1から2.9ポイント減となった。
- ・受注単価(前年同月比)DIは3.0で前回の▲3.1から6.1ポイント増となった。
- ・稼働状況(前年同月比)DIは▲13.0で前回の▲3.1から9.9ポイント減となった。
- ・資金繰り(前年同月比)DIは▲19.0で前回の▲13.4から5.6ポイント減となった。
- ・3ヶ月後の予想DIは生産高が▲5.0、受注単価は▲7.0、稼働状況が▲10.0、資金繰りは▲17.0という予想になった。
- ・その他自由意見として、
 - ・社員募集の応募が少なく、人材不足が継続している。
 - ・受注は増えているが、多品種小ロットで生産効率が上がらず、利益減である。
 - ・電気代の上昇が異常である。
 - ・電気料金の値上げの影響が大きい。新規案件なら見積時に上乗せできるが、リピート品だと難しい。
 - ・電気料金の上昇分を販売価格に転嫁することが困難であり、利益の大半を失う状況である。
 - ・電気料の高騰が最大の問題で、自助努力の範疇を超えている。行政には実効性ある対策、大企業には価格転嫁を望む。
 - ・燃料費、電気代、材料費の高騰で採算厳しい折に、間もなく賃上げ時期。今のままでは赤字転落間違いなし。
 - ・この状況では、賃上げは困難である。

という意見が寄せられた。